２０２６年度　　# 学 校 経 営 案　　プノンペン日本人学校

日本国憲法 教育基本法 学習指導要領 在外教育施設振興法	**教　育　理　念** **学びの基礎・基本を身に付け、広い視野を持ち、グローバル社会で主体的に活動できる児童生徒の育成を目指す。**	児童・生徒の実態 保護者の願い 今日的教育課題 社会の要請

学 校 教 育 目 標

ともに　みがき　はばたく子

「知恵を磨き、心を耕し、身体を鍛え、世界に生きる」

めざす児童・生徒像

○すすんで考え、学ぶ子
○仲間と共に創り上げる子　　「　共生・共創・協働　」
○仲間と協力して働く子

めざす学校像

○静かできれいで温かい学校
○学ぶことが楽しい学校
○友達と関わることが楽しい学校
○カンボジアの人、暮らし、歴史、文化が学べて楽しい学校
○異学年での活動が楽しい学校

めざす教師像

○質の高い授業で深い学びを導く教師
○子どもと共に学び、心に寄り添える教師
○愛情と責任をもち、人間性を磨き続ける教師
○協調性が高く、他者と協力できる教師
○国際感覚を磨き、人の繋がりを大切にする教師
○ワークライフバランスを大切にし、心身健康な教師

学校経営の基本方針

1　子どもの学ぶ意欲を高め、基礎的、基本的な知識・技能を確実に習得させ、自ら考え、判断し、行動できる児童生徒を育てる。
2　異学年との共同の学びを通して、豊かな心や創造性を涵養する。
3　カンボジアで学ぶ利点を最大限に活かした学校づくりを推進する。
4　教職員相互の和を基盤に、質の高い教育活動を展開し、教育目標の具現化を図る。
5　家庭・地域と連携し、信頼される開かれた学校づくりを推進する。

２０２６年度の学校運営・指導の重点

※囲いの項目は最重点

１　学習指導の充実（わかる・できる喜びを全員に）

（１）思考力・判断力・表現力を育て、児童生徒が中心の学習を展開する。
（２）本校が蓄積した教育課程を継承しつつ、新たなチャレンジに取り組む。
（３）ポスターセッションやディベートなどの発表の仕方を身に付けさせる。
（４）自分の考えや思いを相手に伝えるための表現を身に付け活用できるような授業へ

２　グローバル教育（国際理解教育）の推進・充実

（１）日本の文化や歴史と関連付けて、より深くカンボジアを学ぶ学習を展開する。
（２）現地校（ポチェントン小）やインター校（SCIA）等と継続的な交流を実施する。
（３）外部団体（国際交流基金・JICA・JETRO 等）と連携し、教育活動への活用を図る。
（４）海外子女教育振興財団との連携を密にする。

３　英語教育の推進・充実

（１）実践的な生きた英語教育推進のため、英語講師と教師が連携し授業改善を図る。
（２）小学部の CLIL 授業を推進する。（小４～６）
（３）英語学科大学生を活用し、使えて話せる英語教育を推進する。（特設英語）
（４）インター校、他国の日本人学校、日本国内の学校等と交流を推進する。
（５）英語学習ソフトの小学部導入と実践

４　言語活動の充実、国語力の向上

（１）考えを文章にまとめ、人前で発表する機会を様々な場面で積極的に創り出す。
（２）各教科・領域において、発達段階に応じて言語活動の充実、国語力の向上を図る。
（３）お話ワールド、縦割り活動、児童生徒会活動、学習発表会、交流学習等などの工夫改善により、学校全体で国語力の向上を図る。

５　心を鍛え、耕し、育てる教育の充実

（１）交流学習、異学年交流活動、学校行事、校外学習等を通して心を育てる。
（２）道徳の時間を中心とした道徳教育、特別活動を充実する。
（３）在外という特殊な環境を生かした体験活動を通して心を育てる。
（４）補習授業校との交流を通して、在カンボジア日本人児童生徒の人間関係を広げる。

６　不登校、いじめ、問題行動に対し、組織的に丁寧な対応を行う。

（１）家庭との連携を密にし、生徒指導の前提となる信頼関係、協力関係を築く。
（２）風通しの良い職場環境を築き、生徒指導情報を途中で止めない。
（３）いじめの積極的な認知（見逃しゼロ）、適切な初期対応を行う。
（４）カウンセリングマインドを基本とした、子供に寄り添う教育相談を行う。

７　情報教育の推進・充実

（１）全教科・全領域で ICT を活用し、学力の向上を図る。
（２）情報モラルについての指導を全学年で行う。
（３）ノートパソコン等の ICT 関連機器の適切な管理を行う。

８　児童生徒の安全を第一に危機管理体制を構築する。

（１）大使館、警察、警備会社等との連携・協力し、連絡体制を整える。
（２）様々な状況を想定した実践的な避難訓練を繰り返し、危機対応能力を高める。
（３）他国の事例を踏まえ、発達段階に応じた安全教育を実施する。
（４）学校行事の企画・実施に際し、子供の安全の視点を常に持つ。

９　校務・指導の DX 化を推進し、本校にとってより有用な方法を構築する。

（１）ICT 環境の整備と効率化を図る。
（２）デジタル教科書の活用事例を共有する。
（３）学校ホームページ・Facebook 等を活用し、学校の魅力発信力を高める。
（４）ロイロノート（教育支援アプリ）の効果的な活用を図る。
（５）オンライン授業の要件を教員間、保護者と情報共有し、適切な運用を図る。

10　校内研修・研究の工夫・充実

（１）教職員の視野を広げ、指導力の向上に資する実践的な研修・研究を推進する。
（２）現地に学ぶ体験的な研修機会を設ける。
（３）外部機関（大学、JICA,大使館、JBAC 等）との連携を密にし、有効活用を図る。

11　社会人・企業等を活用した教育活動の推進・充実

（１）カンボジアについて学ぶための外部講師の人材を開拓・確保する。
（２）学習支援ボランティアの活用（プノンペン大学・教員養成大学学生等）
（３）職業体験学習及び講師（企業・団体他）の活用
（４）働く意義や意味を知る。（保護者企業等）
（５）教科指導における社会人講師の活用…生活、家庭、理科、体育、総合等

12　大使館・日本人会・関係団体行事への児童生徒の参加・協力

（１）各種行事・コンクール等への参加（要請を含む）を通して地域社会へ貢献する。
（２）日本人会主催盆踊り大会には全校で参加できる体制づくりに努める。

13　ワークライフバランスを大切にした、働き方改革の推進

（１）勤務時間を適切に管理し、休暇等の適切な利用を図る。
（２）風通しの良い職場づくりをお互いに心がけ、和やかな職場環境を創る。
（３）ワークライフバランスに留意し、自己の人間力の向上に努める。